

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

今話題のChatGPT



ChatGPTが話題になって半年が過ぎようとしていますが、その浸透ぶりの速さには目を見張るものがあります。ChatGPTはAI(人工知能)の一種で「生成AI」と呼ばれる分類になります。今回は、このChatGPTについて調査してみます。

ChatGPTを使うには「情報セキュリティが危ない」とか「機密情報が洩れる」など、利用を躊躇し惑わせる話も聞きますが、GoogleやMicrosoftでも生成AIを積極的にサービスに取り込んでできています。我々が知らないネットサービスに生成AIが使わ

れているという事が今後増えてくると思われます。

ChatGPTは条件を対話形式で追加していくという方法で、求める回答を導きだしていきます。条件を上手く伝えられるかによって、導き出される回答の精度も違ってきます。

ChatGPTには、無償版と有償版があり、有償版の方が賢く、無償版ではインターネットへの接続はできませんが、有償版ではインターネット接続が可能で、検索した結果をまとめてくれたりもします。Microsoft BingにもChatGPTの上位機能が使われています。

ChatGPT は平気で嘘をつく

ChatGPTなどAIは膨大な情報に基づいて、利用者の質問に答えることを基本としています。ただ、その答える内容が正しいのかというと、必ずしもそうとは言えません。

ChatGPTは自然言語処理AIと言う分類に属しています。膨大な量の文章を学習し、与えられた文章に続く語句を確立的に導きだしているだけで、推測の繰り返しに基づいて回答を生成しているため、正確な情報を選択しているかは疑問です。これは、言葉の意味を理解して回答しているわけではないという事です。1+1の答えは2ですが、この2になるという数学的根拠を知っているのではなく、文章の流れとして、1+1の次に続く言葉は2だと推論しているにすぎません。

知っておかなければならないのは、AIが誤った情報を提供する可能性があるということです。

ただ、言い換えれば「ChatGPTは創造的である」ということにもなります。言葉のより良い組み合わせで、人々を魅了する歌詞を書いた入り小説を書いたりもできるのです。

ある企業では、ChatGPTを使用する際に、注意喚起として「回答を盲信せず、必ず情報の正確性を確認しましょう」という方針を採用しています。



ChatGPT を仕事で使う

ChatGPTはブームとなり、多くの会社で利用が始まっています。それでは、どの様に仕事で利用できるのかを考えてみたいと思います。

ChatGPTは言語処理系AIであり、多くの文章データを処理することに長けています。文章の作成や要約、分類と言った方面で活躍してくれることが期待できます。さらに日本では日本語でChatGPTを利用できますが、もともとの開発は英語で行われていますので、翻訳などでも期待ができます。

1 長文の論文を読ませて要約させる

研究者が1日数本しか読めない研究論文をChatGPTを活用して一気に学習させ、必要な情報を推論させることが可能です

2 稟議書の作成

ChatGPTを活用すれば、資料の要約や、外国語の資料なども翻訳してくれるので、資料を調べて稟議書を作成する仕事の軽減に役立ちます

3 クレームへの返答案を依頼

クレームの内容をChatGPTに伝え、謝罪文書の作成を依頼することができます。

4 専門的文章を小学生でもわかる文章に修正する

文章をChatGPTに読ませて、「小学生にも分かる文章に直して」と頼めば、要約して文章をまとめてくれます。

5 EXCELで関数が分からない時に尋ねる

ChatGPTは、プログラミングも得意です。EXCELの関数やVBA、Python、JavaScriptなど、わからないコマンドや関数などの情報提供をしてくれます。が、プログラミングの正確なサポートはできないので注意が必要です。

6 自分で書いたレポートを添削

「誤字脱字、分かりにくい文章を指摘」と頼めば的確な指摘が期待できます。